荒木牧人作「アニマル・ファンタジー　鳥たちの挑戦」

＜前編＞

ナレーション　時は西暦2005年、地球上のある国。ここは都心から少し離れたベットタウン。そびえたつ高層マンションが何棟も連なり、大流行している水鉄砲を使って、子供たちが元気に遊んでいます。西の空が次第に赤く染まっていく夕暮れ時、鉄塔の大きなスピーカーから流れるチャイムの音がしだすと、みんなそれぞれの家に帰り始めました。

子供1　カラスが鳴くからかーえろ。

子供2　カラスが鳴くからかーえろ。

カラス　カアー、カアー、痛いよー、痛いよー、助けてよー。

（効果音）　（カラスの群れの鳴く声）

ナレーション　無数のカラスの声が交差する中、1羽だけ、本気で助けを求めている鳴き声がありました。

カラス　カアー、カアー、痛い。だれか助けて…。

ナレーション　子供たちの遊び場となっている原っぱの端、大きなイチョウの木からその声は聞こえました。見ると1羽のまだ若いカラスが、苦しそうに倒れています。周りにたくさんの石ころが落ちているところを見ると、だれか人間に石を当てられ、傷を負ってしまったようです。

カラス　おれは何もしていないじゃないか。カアー。おれが何をしたって言うんだ。痛いよー。

ナレーション　抜け落ちた羽が辺り一面に飛び散り、体のあちこちから血が流れています。このままでは危険な状態です。その時、2匹のハエのフライ（Fly＝ハエ）たちが、楽しそうにフラフラとこちらに向かって飛んできました。

カラス　カアー、カアー、お前たち、助けてくれよー。体中が痛いんだ。

ナレーション　2匹のハエは、聞こえてくるその声に気づき、イチョウの木下に無残に横倒れになっているカラスを見つけましたが、お互いに見詰め合ったかと思うと、大笑いしながら言いました。

ハエ1　フィーン、アハハハ、こりゃ愉快。見ればあのカラス野郎のクロウ（Crow＝カラス）じゃないか。哀れなお姿で。

ハエ2　フィーン、散々おれたちの食事の邪魔をしてくれたバチが当たったのさ。

ナレーション　そう、クロウは、いつもゆっくりと食事しているこのハエたちにちょっかいを出してはその食事を横取りしていたのです。

ハエ1　フィーン、クロウちゃん、じゃあね。

ハエ2　フィーン、バイバイ。

クロウ　（かぶせて）フライ、おい、フライ!

ナレーション　2匹のハエは、クロウの叫び声をしり目に、楽しそうにフラフラと飛んでいってしまいました。クロウはがっくりと首を落とすと、次の瞬間、襲ってきた激痛に顔をしかめました。すっかり力を失ったクロウの顔のわきを、その時、一匹のダンゴ虫のバグボール（Bugball 造語＝ダンゴ虫）が、ノソノソ通り過ぎようとしました。

クロウ　バグボール君。

ナレーション　ダンゴ虫はその声にビクッとしたかと思うと、体を丸め、攻撃に備える体勢をとりました。

クロウ　バグボール君、助けてくれ。バグボール君。…

バグボール　知らないよ!　カラスの言うことなんて、聞けるか。おいらの仲間を何匹も食べておいて。わぁー!（と走り去る。）

ナレーション　猛スピードで遠ざかっていくダンゴ虫を、動けない体でむなしく見詰めていたクロウは、昔、遊び半分でつついて食べた大勢のダンゴ虫たちのことを思い出しました。その時です。

猫　ニャーオン。

ナレーション　遠くで聞こえたその声に、クロウの血はサーッと凍り付きました。

猫　ニャーオン、何か動物の血のにおいがするんだがニャー。

ナレーション　それは、片目を失った大きな大きなトラ猫のタビー（Tabby＝トラ猫）でした。ギョロギョロと鋭い眼光で周りを見回しながら、ゆっくりとイチョウの木に近づいてきます。そしてついに、木の下に倒れているクロウを見つけました。

タビー　ニャンと、お前はあのクロウだな。これはまたとんだごちそうだわい。おれ様の食事を時々かっさらった、にっくきカラスめ。今夜は飯抜きかと思ったら、ありがたい。じっくり味わってやるぞ。ニャハハハハ。

ナレーション　片方だけの目をギョロリと開き、ニヤリと笑ったタビーは舌なめずりをして、飛び散っている羽を踏みつけながらクロウに近づきます。

クロウ　も、もう…ダメだ。

ナレーション　心も体も疲れ切ったクロウは、もはや生きることをあきらめ、目を閉じて死の瞬間を待ちました。その時です。

カブト虫　ブィィィィィィーン！

ナレーション　ものすごい速さで何かが飛んできたかと思うと、開いているほうの猫の目をめがけて体当たりをしたのです。

タビー　ンギャーーーー!!

ナレーション　タビーは叫び声を上げて飛び上がり、サーッと一目散に逃げていってしまいました。

クロウ　カアー、な、何だ?

ナレーション　よく目を凝らすと、どうもそれは黒っぽい虫のようでした。クロウは、ともかくこの

虫の勇敢な行為によって、命だけは助かったことを知りました。

カブト虫　おい、お前、大丈夫か?

クロウ　う、痛!　いや、苦しくて、痛くて…しょうがないんだ。

カブト虫　うわ、これはひどい傷だ。血まみれじゃないか。よし、ちょっと待ってろ。ブィーーン。

ナレーション　得体の知れない命の恩人は、そう言って飛び去りました。クロウ波及に体中の力が抜けて、力なくうずくまっていました。傷口が熱を持って、体中がほてるように熱くなってくるのが分かります。

クロウ　グアーグアー、痛いよう、熱いよう。

ナレーション　その時でした。冷やっとしたものがクロウの傷口に触れました。さっきの黒い虫が戻ってきて、何か草のようなものに水を含ませて、クロウの傷口を洗っているのです。ツーンと薬草のようなにおいが鼻を突きました。黒い虫は何度か飛んでいっては、冷たい水を運んできて、クロウの傷を丁寧に洗いました。クロウは、やがて体の中から熱が引いて、痛みがスーッと和らいでいくのを感じました。

カブト虫　さ、もう大丈夫だろう。

ナレーション　その声に、クロウはゆっくりと目を開けました。もう真夜中ごろでしょうか。満月が原っぱを明るく照らしています。声がしたほうに目をやると、腕を組んで、満足げに笑っている命の恩人がいました。それは、一匹の大きなカブト虫でした。

カブト虫　たまたま我が家に帰るところだったんだが、生きる希望を失った君の心の叫びが聞こえたんで、我が主と連絡を取り合って位置を確認し、助けにきたってわけさ。君はまだ死んじゃいけないんだ。

クロウ　あなたは…?

ナレーション　その言葉を待っていたかのように、カブト虫はビッと手を後ろに組むと、胸を張って、力強い声で言いました。

カブト虫　天と地をつくられた万軍の神、主の地球生物救世軍、動物軍団、昆虫部隊のビートル（Beetle＝カブト虫）大佐だ。

クロウ　カァ？

ナレーション　突然、訳の分からないことを言い出したカブト虫に、クロウはどう反応していいのか分かりません。

クロウ　天と地が、神で主が地球の…昆虫大佐だって?

ビートル大佐　違う!　もう一度だけ言おう。（ゆっくり）天と地をつくられた万軍の神、主の地球生物救世軍、動物軍団、昆虫部隊のビートル（Beetle＝カブト虫）大佐だ。

ナレーション　クロウはますます混乱しました。しかし、何はともあれ命を助けてもらったのは事実だったので、動かぬ体で精一杯のお礼を言いました。ビートル大佐は恐ろしいほどの腕力で、自分の何十倍もあるカラスの体を、目立たない茂みまで引きずっていきました。

ビートル大佐　朝になったら、また助けをよこす。元気になったらまた会おう。

ナレーション　彼にそう言うと、ビシッと敬礼をし、ブワンと大きな羽を広げたかと思うと、飛び去っていってしまいました。しばらくボーッとしていたクロウでしたが、その胸には不思議な温かさを感じていました。なぜって、クロウは生まれてから一度も、助けてもらったことも、優しくされたこともなかったからです。

クロウ　（モノローグ）ビートル大佐とは初めて会ったのに。普段、カブト虫なんて口を利いたこともない。それをあんな命懸けで猫から救い、看病してくれるなんて…。なぜなんだ?

ナレーション　クロウはうれしさの反面、心の中は疑問でいっぱいでした。

クロウ　（モノローグ）おれはまだ死んじゃいけないって言ってたな。何でだろう。「天と地をつくられた万軍の神」って何だ? 「生物…救世軍」だって?

ナレーション　クロウは、ビートル大佐の言った不思議な言葉を思い出していました。

クロウ　ま、今夜はもう考えるのはよそう。とにかく助かったんだ。おれは生きてるんだ。

ナレーション　そう言うと、大きなため息とともに、クロウは深い眠りに落ちていきました。

＜後編＞

クモ　おはようございます。

クロウ　…うう…。

クモ　おはようございます、クロウさん。

クロウ　え? あ、痛、痛たたた…。

ナレーション　人間の石打ちによって大ケガをした、まだ若いカラスのクロウは、ビートル大佐と名乗る一匹のカブト虫に助けられ、傷の手当てをしてもらい、こうして人目のつかない茂みで、一夜の休息を取ることができたのです。

クモ　少しではありますが、木のミツを持ってまいりました。傷は深いので、まだ無理して動かさないでください。さあ、まずは体力をつけるため、食事をなさってください。

ナレーション　見ると、大きなクモがクロウの顔の前で淡々と話し掛けています。

クロウ　お前はだれだい?

クモ　は! 申し遅れました。わたしは主の地球生物救世軍、動物軍団昆虫部隊のスパイダー軍曹（Spider＝クモ）と申します。ビートル大佐じきじきの指令を受け、食事を持ってまいりました。

クロウ　ビートル大佐の…。

ナレーション　食事の後、スパイダー軍曹は、クロウに聞かれるままに、この動物軍団の組織の話をしてくれました。けれども、だれが、何のためにこの軍隊をつくったかと聞かれると、「それは軍の機密です」と答えるや、彼はさっと敬礼をして、そろそろと足早に去っていきました。クロウは不安げに、もう一度体を動かしてみまし

た。

クロウ　カアー、痛たたたた。

ナレーション　その時、クロウの上空で聞き慣れた声がしました。

フライ1　フィーン、あのクロウのやつ、死んだんだね。どこにもいなくなっちゃったよ。

フライ2　フィーン、よかったよかった。これで安心して食事できるね。

フライ1　フィーン、そうだね。ほんとよかったね。

ナレーション　それは、いつもクロウに食事の邪魔をされていた2匹のハエのフライたちでした。クロウはズキーンと胸が痛みました。2匹の会話にショックを受けたのです。

クロウ　おれが死んだことを…喜んでいる。

ナレーション　クロウはそっと目を閉じると、自分が彼らにしてきたいたずらを思い返しました。

クロウ　ごめんよ。別にお前らに恨みがあったわけじゃないんだ。ただ、お前らがうまそうに食っているのを見ると、おれのエサをとられたようで、無性に腹が立って、もう満腹でも、あいつらにちょっかいを出してた。その結果がこれか…。

クロウ　（モノローグ）おれは、猫に食べられてしまったほうがよかったんじゃないかな。

ナレーション　ふと耳の奥に、小さい歓声が聞こえてきます。

バグボールたち　わーい、クロウが死んだ!　わーい、クロウが死んだ!

ナレーション　それは、バグボールと仲間のダンゴ虫たちの声でした。数多くの仲間をクロウに殺されたダンゴ虫たちが、お祭り気分でクロウの倒れていたイチョウの木の下に集まっているようです。

クロウ　（モノローグ）ごめんよ、別に死ぬほどおなかがすいていたわけじゃないんだ。ただ、あいつらがクルッと丸くなると、“そんなんでおれ様から逃げられると思うのか、バカめ”って気分になって、パクリとやっちまったんだ。その結果がこれか…。

ナレーション　その時、フワフワと、白いチョウと黒いチョウの2羽のバタフライ（Butterfly＝チョウ）たちが、クロウのすぐ上空にやってきました。

バタフライ1　ねえねえ、昆虫部隊のビートル大佐のこと、聞いた?

バタフライ2　ううん、知らないわ。

バタフライ1　人間に捕まったってうわさよ。

バタフライ2　ウソでしょ?　あの方が捕まるなんてことがあるの?　本当なの?

バタフライ1　目撃者もいるのよ。本当らしいわよ。

ナレーション　クロウの胸に、また別の種類の衝撃が走りました。自分を命懸けで猫の手から救ってくれた、あのビートル大佐が、恐ろしい人間に捕まったというのです。

バタフライ2　ああ、かわいそうな大佐。あんなカラスを助けたばっかりに、お疲れで動けないところを人間に捕まったのよ、きっと。

バタフライ1　そうよ。それなのにあのにっくきカラスは、この茂みのどこかで生きているのよ!

ナレーション　クロウは、じっとその言葉を聞いていました。そして自分の存在を悔いました。
クロウ　（モノローグ）大佐、おれのために、申し訳ありません。おれは死んだほうがよかったんだ。生き延びるべきじゃなかったんだ。…よし、死のう。
ナレーション　クロウは決心しました。
クロウ　（モノローグ）飛べるようになったら、人間どもがおれを殺すために屋根に仕掛けたネコイラズを食っちまえばいい。
ナレーション　その時でした。
ビートル大佐（エコー）君はまだ死んじゃいけない。
ナレーション　突然、あの声が聞こえました。クロウはびっくりして目を開けました。白い雲、青い空、自分ほど背の高い雑草意外は何も見えません。
ビートル大佐（エコー）君には主のミッションがあるんだよ、クロウ君。
クロウ　ビートル大佐！　大佐…（泣きながら）お、おれは死にたい。死にたいんです。生きてたって仕方がない。みんなに悪いことばかりしてきた。もう生きていく資格なんてないんです。生きていたくないんです。死にたいんです！
ナレーション　その時、遠くで悲鳴が聞こえました。あれは先ほどのバタフライたちの声です。人間の子供たちがキャーキャー騒いでいます。
子供1　わあい、黒アゲハ捕まえたぞ！
子供2　白いのも捕まえたよ！
子供1　このごろ全然いないんだよ。
子供2　やっと捕まえた。高く売れるぞ！
ビートル大佐（エコー）さあ、君の出番だ。行ってきなさい。
クロウ　嫌です！　おれはもう死ぬんです。死ななきゃいけないんです。
ナレーション　そう言うと、クロウは反抗して、バタバタ羽を震わせました。するとどうでしょう、もうどこも痛くないのです。
クロウ　直ってる…。
ビートル大佐（エコー）そうだ。君の体はもう大丈夫なんだ。
クロウ　でも…でも死にたいんです。おれは生きてちゃいけないんだ。おれが生きてたって、フライたちも、バタフライたちも、だれも喜ばないんです。あのバグボールたちだって…。
ビートル大佐（エコー）いや、主は喜んでおられるぞ。
クロウ　主？
ビートル大佐（エコー）何度も言ったろう！　天と地をつくられた万軍の神、主なるイエス・キリスト様さ。
クロウ　イエス・キリスト様？
ビートル大佐（エコー）よく聞くんだ、クロウ君。この全世界、全宇宙は、主によってつくられた。そして最後につくられた人間に、この世界を治めさせたんだが、人間は神のように

賢くなろうとして、罪を犯し、自分たちの楽しみのためにこの自然界をどんどん破壊し始めた。このままでは、地球の緑も、水も空気も、そこの住むわたしたち生物も、どんどん死に絶えてしまう。それを救うために、主は全動物から成る「主の地球生物救世軍」をつくられた。編成は、動物軍団、魚軍団、鳥軍団の3つだ。人間どもの陸、海、空軍に対抗してな。そしてそれぞれの軍団の総司令官の指揮の下、自然破壊の人間どもから生物を救い、その活動を阻止するために立ち上がったのだ。そこで主は君をその鳥軍団の総司令官にせよ、とわたしに命令されたのだ。

クロウ　　え、おれが、総司令官？　む、無理です。嫌です。おれは死にたいんです。もう生きていたくないんです。

ナレーション　　その時、クロウは一瞬我が目を疑いました。信じられません。おびただしい数の、ありとあらゆる鳥たちが、空いっぱいに広がっています。そして全員が、自分に視線を向けているのです。

ビートル大佐（エコー）クロウ君。もう君は独りじゃないんだ。君は十分自分の愚かさを知った。そして心から悔い改めた。その叫びを、主はすべて聞いてくださったんだ。だからこそ、君を選んだんだよ。クロウ君。君に主の言葉を贈ろう。

「わたしはあなたに命じたではないか。強くあれ、雄雄しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、主が、あなたの行く所どこにでも、あなたとともにあるからである。」（ヨシュア記1:9）

さあ、主の命令だ。行ってきなさい！

ナレーション　　クロウの目に映る無数の鳥たちが、一斉に羽音を立てました。それらは風となり、原っぱを揺さぶり、すっくと立ち上がったクロウの前方から吹いてきます。クロウは閉じた目をゆっくりと開けると、大きく息を吸い込みました。

クロウ　　さあ、ビートル大佐を救え！　バタフライも、バグホールたちも救うんだ！　さあ、行くぞ！

ナレーション　　かくして主の地球生物救世軍、鳥軍団総司令官クロウは飛び立ちました。一斉に風を起こして、クロウの浮上を助けた無数の鳥たちが、一糸乱れず後に続きます。クロウたちの姿は、たちまち朝焼け雲の中に消えてゆきました。“地球の生物を救う”という、主のミッションを帯びて—。

（完）